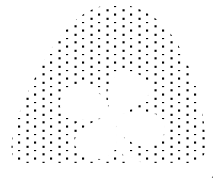


Assault
Prevention
Information
Space

～暴力防止に役立つ情
報の収集や発信の拠点
として様々な活動を行
っています～

APIS

NPO法人暴力防止情報スペース・APIS (アピス)



2020.7.16

No.80



(写真撮影・刺繍 野中ひとみ)

- ◆APIS 第15回通常総会を初めてZoomで開催しました
- ◆講師派遣報告 キワニスクラブ
- ◆CAP センター・JAPAN 総会参加報告
- ◆それぞれの自粛生活
- ◆APIS の活動記録 2020年4月～6月

APIS 第 15 回通常総会を 初めて Zoom で開催しました

コロナウイルス緊急事態宣言中の 5 月 17 日、NPO 法人暴力防止情報スペース・APIS の第 15 回通常総会を Zoom で初開催しました。

開催にあたり、総会案内状には Zoom 体験のない方々に対して説明文を補足したり、円滑に進行できるように事前に Zoom の練習を重ねて準備をしてきました。

その甲斐あって当日を迎え、本当に久しぶりの会員さんのお顔が画面越しとはいえ見ることができた時は嬉しく思いました。

そして、2019 年度事業報告や決算報告・新年度事業計画にも承認を頂き、無事総会を終了させて頂きました。ありがとうございました。

出席者から APIS に対する評価・期待を頂きましたので、その一部をご紹介しますと思います。

・今日はありがとうございました。皆さんの顔と声を届けて頂いて、元気を頂いた嬉しい時間となりました。

・ありがとうございました。大変な状況ですけど、APIS には変わらず未来を感じました。今は活動復帰は叶いませんけど、発展を願っています。コロナ収束を祈り、お会いできる日を楽しみしています。

・こちらの Zoom 準備不足でお手間取らせました。「元気にしています」と、こちらの映像をお届けできなかったのは残念ですが、こちらは久しぶりに皆さんの顔と声が聴けて嬉しかったです。思いもかけない状況ですが、これからも APIS は柔軟に対応していけると頼もしく感じました。APIS の発展と皆さんの健康を願っています。今日はありがとうございました。等々

このような状況の中、どの様に活動していくか課題は多いですが、一つずつスタッフ間で協議を重ねて頑張っていこうと思っています。今後とも APIS の活動の支援よろしく願いいたします。



講師派遣

大阪キワニスクラブへ行ってきました！

2020年6月23日 12:30～13:30

リーガロイヤルホテル

3月の予定がコロナウイルスの影響で延期になっていました。

今回 無事に例会が行われ、「子育て支援をする中で感じたこと」と題して講演してきました。プロジェクターでCAPの様子やわいわいトーク・ゆるゆるトークの様子を見ていただき、今の子育て事情をお話しました。

児童虐待に関心を持ってくださり、熱心に話を聞いていただきました。

「A地点」の話が印象に残ったようです。貴重な機会をありがとうございました。



CAP センター・JAPAN の総会に参加しました



2020年5月23日

今年はコロナウイルスの影響で Zoom を利用して行われた総会でしたが、議事もスムーズに進行して投票が自動的に数えられ時間的にも短縮になったと思います。CAP センター・JAPAN の会員は日本の半分の地域でもあり、総会を毎年開催しなくてはならないことを考えると、今後も Zoom 開催することが望ましいのではないかと感じました。理由はセンターに近い会員は交通費の負担が少ないのに対して、センターから遠いと前泊や後泊も必要になってくるので金銭的負担の格差を是正できるからです。

コロナの影響はマイナスな面が大変大きいですが、少しプラスの影響を感じる事が出来た半日でした。



日々の暮らしは続いていく



5月に娘が男の子を出産して、退院の日から3週間娘の家で家事・育児を手伝った。30年ぶりの新生児との暮らし、初めての男の子、里帰り出産だった自分とは違う環境、リモートワークで家に居る娘の夫・・・普段の日常とは違うことに加えての緊急事態宣言下の街での日々をちょっとだけ報告。

元々は4月に産前休暇に入った娘の家に行き、出産に向けての準備をあれやこれやも手伝いたいと思っていた。娘が18歳で大学に入ってから10年余り、学生や会社員として過ごしていることへの手助けはほぼしないでした分を埋め合わせるつもりがあった。ところが、COVID-19である。

大阪府と神奈川県はともに感染者数の多い地域であり、行動を制限することになった当初から里帰りはほぼしない決めていたので、慣れたクリニックで出産・入院の世話になり、退院の日からの自宅での育児から手伝うことになった。娘は往復の行程での私の身の安全を気にしていた。友人から「出産後の手伝いでの移動は”要と急”だよ」と言われて気持ちが楽になったと話していた。

クリニックでの面会はなく、スマホから届く写真や動画で様子を知るだけで、退院の前日に娘の家に到着すると、娘の夫と二人、翌日のスケジュール確認と抱っこ紐の着脱方法をあれこれ話してやってみているうちに徐々に打ち解けることができた。

多くの家庭が自家用車で迎えに行き、待ち時間を車で待機している中、車を持たない私たちはタクシーで向かい、クリニックの中に入ることができないので、近くのスーパーマーケットのベンチに座って時間を過ごすことになった。

ご時勢としていた仕方ないとは言え、何とも切ない気分にもなったが、娘と赤ん坊を迎えての暮らしの話題に尽きることはなかった。まず、沐浴とその前後の脱着をどの場所での様にしたら良いのかと相談していて、予定通り早めに来ていたらとくに済ませていた話だなあと、また切なくなっていた。

結局は、自宅に帰った娘の意向で決まっていくのだが、その他の事でも入院中に受けたケアと授乳・沐浴指導をいかに自宅で実践していくかを考える娘の言葉とその夫の対話でやり方が整っていき、私は娘から洗濯と哺乳瓶の除菌方法の指導を受けて、やり方を身につけることになった。「後になって考えると退院した日と翌日くらいは緊張していたのか、何もかも自分がしなければと思っていたけれど、眠気や体の痛みでそれは続けられず、やってもらえる様になったら泣き声で起きなくなっていた」と話すとおり、赤ん坊の泣き声に反応しての行動は三人が三様で、互いの様子を話題にして笑い合うことになった。

2～3時間置きの授乳とおむつの交換、夕方の沐浴、それに付随する洗濯や洗浄、自分たちの食事や入浴、自宅でのリモートワークへの対応の日々で皆が寝不足になっている中、切れ切れの静かな時間（つまり赤ん坊が眠っている昼間の時間）を読書にも当てた。娘の家にはあるはずと読むのを先延ばして楽しみにしていた「十二国記」の新シリーズ「白銀のおか 玄の月」全4冊を読了。仕事をしながらの妊娠・出産の参考になったという「35歳からはじめての妊娠・出産・育児 安心BOOK」にも目を通し、よその家の本棚は興味深いなあと赤ん坊を抱っこ歩きであやしながら見ていて並んでいた「うつつヌケ～うつつトンネルを抜けた人たち」と短編集「ヴェネツィア

便り」も手に取った。

娘の夫が1ヶ月間の育児休業に入って、引き上げて来た。一人分の人手がなくなって慌てることもあるだろうけれど、よく話し合っている二人なら何とかやっていこうと思っている。

その後の1ヶ月健診で体重が1,180グラム、身長が5センチ増えていたと知らせて来た。

どおりで大きくなっていたはずだ。

また会えるのを楽しみにしている。

(のぶどう)



自粛期間のこと

この春は、大学卒業を控えた息子の行動に冷や冷やしっぱなしの3か月間だった。

1月頃 私は「コロナウイルスは風邪かインフルエンザの様なものだろう」と油断していた。

2月に論文発表が終わり卒業の確認ができると、息子はすぐに計画していた卒業旅行に旅立った。北京経由のヨーロッパ行を計画していたが、さすがに1月に「それは危険かも・・・」と察知した息子たちは、しっかりドバイ経由に変更していた。私はこの旅行を阻止した方が良いのか大変悩んだ。長期休暇は今しか取れないし、と言って絶対行かなければならない旅行でもないし。息子と話して①外務省の「たびレジ」に必ず登録すること②マスクを持参すること③健康第一、無理な行動はしない、を約束してもらった。旅立った後も、刻一刻と世界の感染の状況は変わるし、大学からの行動規制の状況も変わる。私はドキドキしっぱなし。「スペインのサッカー観戦チケットが取れなかった」と言っていたのに、サッカー会場でにっこの写真がインスタグラムにあがった時には「行っちゃったんだ!」と思ってしまった。「一生に一度のすごい経験だよ」とは思うのだけど、どこかで何か引掛かっていた。

3月初めに元気に帰国。2日ほど休憩したら、また卒業前の行事で毎日出かけて行った。行動力のある大学生を自粛させるのはとてもむづかしかったし、出来なかった。3月初めにヨーロッパにいた友人たちは予定を早めて、続々と帰国し始めていた。そのうち、卒業式の中止が発表され、証書を取りに学校に行けるのは、帰国から2週間以上経過して発熱のない人に限定された。就職で3月末に引っ越すはずの引越し先もなかなか決まらなかった。たぶん、リモートワークが始まり、人事の方たちも思うように仕事が進まなかったんだと思う。引越し5日前にようやく社宅が決まり、下見も無しに引越しに突入。どんな部屋かわからないので、最低限の荷物で引っ越し。連日、トイレトペーパー品切れが続いたので、大阪を離れる時にはトイレトペーパー1つを無理やりカバンに突っ込んだ。入社式の中止も決まる。横浜に引っ越した途端、お店は休業。「机持って行かなかったけど、食料つめてなかったけど、どうしてるんだろう?」「役所手続きは出来たんだろうか?」色々思うのだけど、Wi-Fiも整っていない息子にはこんなことで連絡できなかった。私としては思わぬお別れ?になってしまった。

4月からのリモート研修がどんなものだったのか、さっぱりわからない。でも、電話が通じたとき「5分後から同期とリモート飲み会」と言ったので「孤独ではないんだ」と安心した。家で一人きりの長い期間を過ごし、息子も鍛えられただろうなあと今では思える。5月初めに息子からのメッセージとプレゼントが届き、びっくりしてうれしい気持ちと「いっちょ上がり!」の気持ちになった。私が思っていた息子の自立のイメージとは少し違ったが、無事に離れていった。息子は初めての色々な体験をし、社会人を実感し、また自由に過ごしているんだと思う。



自粛という初体験。コロナウイルスは、当り前のことが当たり前でなくなることを経験させてくれた。こんなことを体験するとは夢にも思っていなかった。色々あるけど、何とかなるし、何とか生きていけると思っている。

(マーガレット)

緊急事態宣言の中での自粛生活

自粛生活の中でもチャレンジ精神を忘れない私が、初トライしたものは幾つかあるのですが、今回はその中の初コンポスト生活についてご報告します。

前から興味があったのですが、匂うんじゃないか？虫が来るんじゃないか？庭がないと出来ない？段ボールコンポストはダサいと思いついていましたが、スタイリッシュな「LFC コンポストセット」をネットで見つけ、マンション暮らしの私にも出来そうと思ったので、挑戦することにしました。

ご存知の方もいるかと思いますが、コンポストとは、枯れ葉や家庭からでた生ごみなどの有機物を、微生物や菌の力で分解発酵させてできた「堆肥（たいひ）」のことです。

この LFC ガーデニングコンポストのやり方は、毎日 300g の生ごみを 3 週間ほど投入して混ぜるだけ。3 週間ほど生ごみを入れ終わったら、袋を閉めて、約 2 週間そのまま熟成。出来上がり！自作の堆肥を使って無農薬で育てた野菜は、葉っぱや皮から丸ごと食べても安全だろうし、堆肥づくりを通して自然を感じる事が出来ます。

生ごみ→堆肥をつくる→野菜を育てる→食べるという「ローカルフードサイクリング」というエコフレンドリーな小さな命の循環を意識してみる暮らしって自分も自然の循環の一部なんだと気付かされます。

実際にやってみて、ビーガンの私の食生活には肉や魚の生ごみはないので、栄養足りてるかしらと心配したり、餌（生ごみ）を入れて混ぜ混ぜする事で愛情が湧いてきました。発酵が進んで熱を帯びてきたり、白カビが現れたりする様子を分解が進んでいる証拠なんだとちょっとした喜びを感じられて毎日が楽しいです。

熟成が終われば、セットについてきたベビーリーフの種を植える予定です。

コンポストは簡単で大きな環境活動です。私たちが出す燃えるゴミの約 4 割は、生ごみが占めているそうです。生ごみが減って焼却処分するための手間や燃料、費用が減り処理につかう二酸化炭素の排出量が削減されます。with コロナの時代だからこそ地球環境を考えるコンポスト体験となりました

(たくわん)



コロナ禍に思うこと

「ちょっとテレビつけて！」という上司の大声で始まった、学校休業の報せ。卒業式に向けて、6年生の練習が始まるかとしているまさにその時期でした。そこから先は、学校の行事は計画を立てては白紙に、また立てては白紙にの繰り返し。それでも何とか、卒業式を行い子どもたちを送り出せたことは幸せかもしれません。そして、私自身も健康被害を受けたり、仕事を失ったりすることもなく過ごしていることには、日々ありがたいと思う毎日です。

普段は、春休みから新学期に向けては怒涛のような忙しきの学校ですが、今年ばかりは異例の年となりました。外出が制限される不便はありましたが、仕事に関しては定時に帰ることができ、帰ってから料理をする気力・体力ものこっていました。それまでは、毎日仕事場から帰ると湯を沸かす気力しかなく、カップラーメンを食べ気絶するように眠っていた日々から考えると、本当に人間らしい毎日が過ごせました。学校に子どもたちが来ない時期には、忙しくてできなかった教室の掃除や片付けに専念しましたし、家の片付けや、料理、初めてジャムを作ったり、大学生以来久しぶりに少女漫画を読み耽ったりする時間が持てました。

ある晩、仕事場からの帰り道、誰もいない満開の桜並木の下を自転車で走りました。いつもなら賑やかに提灯の下、大勢の人々がバーベキューをしたり宴会をしたりしている場所です。しかし、今年は静かな暗闇の中、満開に咲いた桜だけがぼんやりと白くひかり、私以外は誰も居ませんでした。厳かな美しさを感じると同時に、学生時代に国語で習った「沈黙の春」を思い出し、加えて真っ暗闇の中、満開の桜を独り占めしているという状況が現実離れしていて、背筋がぞっとしたことが印象的でした。

今回、ウイルスが発生した原因は、その方面に疎い私にはよくわからないことだらけです。しかし、人間の活動が野生動物の住処を大幅に侵略していったことが今回のコロナ発生の原因と繋がっているであろうという新聞の記事を読んだ時、何とも言えない暗い気持ちになりました。

人間が自然との共存を真剣に考えていかなければ、遅かれ早かれ滅びてしまうだろうと思う一方で、先進国で生活をしてその恩恵を十分に受けている自分が、自然云々というのは大きな傲慢ではないかという二つの気持ちがあります。

近頃の私は、プラスチックが環境に与える問題に関心を寄せていて、海のプラスチックゴミを掃除するボランティアに参加しようかと考えている所でした。微力で自己満足ではあるのですが、何もしないよりは良いかなと考えていた矢先のコロナ禍で、私は人間の経済活動とは何なのだろう、もっとゆっくり生きていくことも必要なのではないかと考えました。

しかし、これは私が歳をとったことによる考え方の変化かもしれない、という思いもあります。もし私が若ければ、楽しいことや刺激のあることに関心が一杯で、自然との共存やゆったりした生き方などには目も向かなかったかもしれない。また、先進国に暮らし便利で快適な生活を享受している自分が、高みの見物で自然が大切、ということにも「何だかなあ」という後ろめたさがあります。

けれども、いろいろな面で方向転換をしていかなければならないということは確かであると思います。とりあえずは自分に出来ることからやっつけていこうと思います。

(G.M)



APIS の活動記録

2020年4月～6月

4月

- 2日(木) 幸せの黄色いレシートキャンペーン贈呈式
- 3日(金) HP ミーティング

この頃の予定は軒並み中止となる

7日大阪府に緊急事態宣言

13日以降事務所を休業とする→5月25日再開

- 16日(木) 定例ミーティング：Zoom 利用
ニュースレターNo.79発行 発送作業は行わずHP に掲載



レシートキャンペーン贈呈式

5月

- 1日(金) 第15回通常総会案内発送 総会はZoom を利用
- 17日(日) 第15回通常総会
- 21日(木) 定例ミーティング：Zoom 利用
- 23日(土) CAPセンター・JAPAN 総会：Zoom 利用
- 29日(金) HP ミーティング

6月

- 2日(火) ゆるゆるトーク「友人・ご近所との関係」：Zoom 利用
- 15日(月) 電話相談ミーティング：Zoom 利用
- 17日(水) Power to the children in Osaka とミーティング
- 18日(木) 定例ミーティング
- 23日(火) 講師派遣：大阪キワニスクラブ



緊急事態宣言中は、わいわいトークや電話相談ミーティング、APIS 定例ミーティングはZoom を利用しました



6月、事務所での定例ミーティング
直接会って話せるっていいですね



編集・発行

編集後記

79号と80号を併せてお送りいたします。ぜひ、ゆっくりお読みいただくと嬉しいです。(HN)

NPO法人暴力防止情報スペース・APIS
〒534-0023大阪市都島区都島南通 2-4-21
TEL:06-6924-5551
FAX:06-6924-5556